

第42回都市有害生物管理学会年次大会

編集委員会

都市有害生物管理学会は、「建造物を荒らすシロアリに対して著名な指導者であり、慶應義塾大学教授、日本シロアリ対策協会会長であった森八郎博士によって1973年に「日本家屋害虫学会」として創設されました。

それ以来、住宅や食品工場などにおけるシロアリ被害に対しての研究者と燻蒸業者たちとの産学合同による研究の場となっています。また文化財や国宝級の神社や仏閣、それから博物館や図書館に収納されている資料に対する害虫・カビ対策・駆除も森八郎博士が専門とした業務でありました。正倉院御物や、中尊寺に収められている藤原家三代のミイラも、森八郎博士らによった技術で、害虫やカビの被害から守られて、今に伝えられています。都市有害生物管理学会創設以来、絶えることなく毎年、大会を開催して時代を先行した情報交換の場ともなって活動をしております。」(ホームページより)

今回の大会は、新型コロナウイルスによりウェブによる開催となりましたが、全国から55名の参加をいただき感謝申し上げます。



パソコン画面



川上 泰大会長のご挨拶

大会長 川上 泰教授 (麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科環境生物学研究室)

特別講演：ゴキブリの線虫感染について(小林益子)

(麻布大学大学院獣医学研究科寄生虫学研究室)

国内生息ゴキブリから4種類の蟯虫が検出され、飢餓時のゴキブリの生存に有利に働き、食毒剤の二次的殺虫剤効果に影響する可能性が示唆された。

第42回都市有害生物管理学会年次大会

一般講演・ポスター

・集合住宅敷地の雨水桝におけるハエ目幼虫の季節消長

中野敬一(東京都港区)

ヒトスジシマカ39%、アカイエカ群21%、カ類蛹17%、ユスリカ21%、オオチョウバエ・ハナアブが数%だった

・低圧炭酸ガス処理によるクリシギゾウムシの防除

玉利 豊ほか(日本液炭)、宮ノ下明大(農研機構食品研究部門)

臭化メチルの代替品として低圧での炭酸ガス処理を試みクリシギゾウムシの防除に効果が認められた。

・カベアナタカラダニ等不快害虫およびトビイロケアリに対するピリプロールFL剤の防除効果

富岡康浩、田中和之、神戸嘉一、木村悟朗(イカリ消毒)

不快害虫用殺虫剤「ムシクリンFL」250倍液を300ml/m²相当散布したところ、5週間にわたりタカラダニ、クローバーハダニに対する発生抑制効果が認められた。ゴミムシ、ハサミムシ、ムカデ、ヤスデ、ゲジ、トビイロケアリにも効果が見られた。

・精米工場におけるコクゾウムシのモニタリング

宮ノ下明大ほか(農研機構食品研究部門)

精米工場にコクゾウムシ用トラップを配置し2018年度は1,378個体、2019年度は2,042個体を捕獲した。搬入前の玄米に混入したものと思われた。

・北海道十勝地方西部の人為的な環境に生息する多足類

開澤菜月、山内健生(帯広畜産大学)

市街地においてムカデ4種とヤスデ1種が採集された。

・湧水槽内で発生したコワモンゴキブリの防除

小松謙之ほか(シー・アイ・シー)

北海道札幌市内の事務所ビルの湧水槽でコワモンゴキブリが多数発生し、有機リン剤で防除を行った。雑排水槽からの腐敗物の流入が原因と考えられた。

・タバコシバンムシ用交信攪乱剤の交信攪乱効果とその評価法

木村悟朗ほか(イカリ消毒)、菅野格朗(環境機器)

性フェロモントラップの総捕獲数は交信攪乱剤使用前よりも使用後に減少した。一方、小麦粉内の幼虫の総捕獲数は交信攪乱剤使用前よりも使用後に若干増加し、生息状況を把握するためには他の方法が必要と思われる。

・貯穀害虫タバコシバンムシの幼虫に対するピリプロキシフェン含有シートの成長阻害効果

片平浩孝ほか(麻布大学)、木村悟朗(イカリ消毒)

タバコシバンムシ幼虫の発生を防ぐためには、食害を受ける堆積物と防虫シートの形状を一致させ隙間を無くすことが必要である。

- ・ 特定外来生物クリハラリスにおける外部寄生虫の寄生状況:刷毛法によるアプローチ

江口勇也ほか(麻布大学ほか)

ヤマトチマダニ、ツツガムシ科、シラミ科、ヤマトネズミの寄生が認められた。

- ・ 猫回虫のミミズにおける実験感染

鈴木遼子ほか(麻布大学)

- ・ 日本におけるオガサワラゴキブリ属2種の遺伝的多様性について

坂西梓里ほか(麻布大学)。小松謙之(シー・アイ・シー)

- ・ 港湾・空港において輸入品から発見されるホソヒラタムシ科(甲虫目:ヒラタムシ上科)

吉田貴大(東京都立大学)

94個体の標本から11属17種を確認した。

- ・ 動物看護専門職大学の学生が好きな生き物と嫌いな生き物とその理由

谷川 力(ヤマザキ動物看護専門職短期大学、イカリ消毒)

好きな生き物は犬(54%)、ネコ(21%)、その他ゾウ、イルカなど、嫌いな生き物はゴキブリ(48%)、蚊(19%)、クモ(7%)、その他にハエ、アブ、チャドクガ、タバコシバンムシ、カメムシ、セミ、アリという回答を得た。

- ・ 都市有害生物管理学会主催のIPMへの取組み

杉山真紀子ほか(オフィスエスほか)

当学会はいちはやくIPMに注目し2006年よりIPM基礎講座を36回にわたり開催してきた。

